

# インカレコースプランナーに聞く 村越 真

一般的に言って、関東のインカレでは優勝タイムは短め、関東以外の学連が主管するインカレでは、タイムが長めという「法則」がある。関東以外では4年に一度しかインカレが回ってこないため、学生の実力に関するデータが少ないことに加えて、めったにない大きな仕事を与えられたプランナーがロマンを追い求める結果として、コースが長くなりがちだからである。今回は、関東の栃木で開催されたインカレであったが、この法則には外れる結果となった。

また、リレーでも例年になくタイム差のつく結果となった。男女とも優勝チームと他のチームのタイム差は、インカレリレー史上最大である。どうしてこのような結果が生まれたのだろうか。インカレコースプランナー（クラシック：志村聡子、リレー：山本英勝）に聞くことで、この疑問を解消しようと思った。



男子選手権クラスの一部

- どうしてウィニングタイムが男女とも大きく規則から外れてしまったんでしょう。

男子は紺野（早稲田）の関東インカレのタイムを一番参考にしました。アップとか難度は違っていますが、秋の調子のよいときのタイムに合わせようと思っています。具体的にいうと、kmあたりタイムを参考にしましたが、今回道走りが比較的多いし、前半下りだし、

これくらい出ると思っていました。後半もアップはまとまって出てくるが、走れるところは走れるので、80分は出るだろうと。

試走をやって、走ったのは柿並でしたが、その時は前半が今よりえぐい、3番 - 7番の回しが逆になったコースでした。時計を止めながら走って、90分です。試走であることを考慮して、学生なら80分か、85分の間で収まる、ベストなら80分に収まると考えました。

- 確かに調子のよい時の紺野は、シニアの選手の上位と比較しても遜色ないタイムを出しますね。東大とか、インカレショートとかもそうでした。その紺野に合わせてみたいという気持ちはよくわかります。その点でプランナーとしての理想が裏目に出たということですね。

とんで80分は越えるかな。ベストで80分と考えました。ただ最初からミスしたときのことを考慮してウィニングを設定するのはどうかと考えましたので。実際紺野はラップ解析で13分くらいミスしていることが分かっています。80分は十分でタイムだったと思います。それに前走で山口大助が82分です。前走という条件の悪さを考えると、悪くなかったと思います。

- ぱっと見た感じでは、男子の2番は余計かなという感じがします。やぶの中だし、3番へのレグを考えると無意味に下らなければならない。

男子の2番をおいた理由は、むしろその藪です。日光は見通しがよすぎる。このレグでは藪の中できっちり進めるということ、それと1番までがロングですから、それとスピードを切り替えたり、様子とちがうところで違うオリエンテーリングをさせるということを意識したんです。

- 女子のほうはどうでしょう。

女子は金並さんの試走で74分。つぼってです。その時の話をきいて、伊藤恭子さんならベストで65分、ちょっとつぼって70分を切るか60分後半くらいという予想をたてました。伊藤さんの根拠にしたデータは関東インカレ団体戦です。関東インカレも所野だったので、他にもささみね（佐々木峰子）のタイムも考慮しています。

どちらかというと女子の方が心配していました。伊藤さんがちゃんと走れて65 - 70分。でも、彼女が外した場合、全体的に遅くなるかもと。

- 全体としては、タイム差が開いてしまったけれど、女子で優勝した小林のタイムはほぼ予想に近いタイムだったということですね。前半の尾根下りの部分が植

生なんかもこれまでの日光とは違って、それとまでどってタイムに響いたということはないでしょう。

日光らしい、らしくない、はあまり考慮していません。日光らしくないから遅くなるとは思えなかったですね。この部分もアタックポイントさえとらえれば、遅くはないはずです。最初は下りでどんどん走れるし、女子の2番も地図で見るよりも簡単です。

ただ、1番はロングレグにこだわってみました。特に女子はこれまで1番が長いレグだったことがなかったですから。ただ道に出ればよいというレグではなく、最初から地図読みを要求しているレグです。実際入賞者でも番場と深沢は下の沢に一回降りてしまっています。

- そのあたりは、タイム差がついた原因になっているかもしれませんね。

いきなりロングレグにするとスタートで動かなくなってしまう、次の選手に見えてしまうのでは、という危惧もありましたけれど、他にいいコントロール位置もなかったので、ロングレグになったという事情もあります。差がつくのはある程度予想はしていました。

それともう一つ。女子はビジュアル区間のあとの山を登らせたくなかったんです。ところが1月になって、スタート脇に巨大な伐採ができてしまいスタートがバスストップから20分くらいのところにせざるを得なくなりました。そのため、ビジュアル後に長くせざるを得なくなったんです。男子の3番-7番のループも、その短縮のために出来てしまいました。このへんは、1月からもかなり変わりました。

- ブランナーとして、選手のルートなどを集めていると思いますが、意外なルートはありましたか。

女子の4番です。東西に延びる尾根の方向に延びたレグです。私はほとんど尾根の北の白い斜面を走ると考えていたんですが、みんな見事に尾根上をいっています。男子も尾根か尾根の南の道が多かったです。北の白いところを走る人が少なかった。実際走った選手からは、下に落ちてしまふのは怖かったのではという声が聞かれました。でも実際には、その左には道が見えるし、傾斜の変換があるので、簡単なんですけどね。



- リレーの方について伺います。今回七里でのリレーということで、それほどトレイン的にも難しくなかったはずですし、コースを見ても難しかったとは思えません。どうしてこんなにタイム差がついてしまったのでしょうか。

コースを作る時に考えていたのは、日光は見通しがいいし、走るところも決まってくるので、集団で走りつつもバンチング（他の選手を利用して走る、いわゆるつるむ状態）しないよう、各選手がオリエンテーリングできるようなコースを目指しました。それで、細かくオリエンテーリングするところを作っています。女子は、ルートを調べると全然一緒にやった形跡はないし、男子もばらばらでやったようで、ちょっと意外。

集団が形成されなかった一つの原因としては、フォークを2x2x2にしてみたことにあると思います。最初の3つのフォークでコースは最大8つに分かれていきます。それで集団が形成されなかったじゃないかな。もっとも、2の乗数にしたのはゴルフ場の存在もあります。ルートの組み方が限られてきたので。

確かにリレーでは集団で走るのは大事だけど、不用意なバンチングは防ぎたいと思ってました。そのためのもう一つの工夫は、ルート選択ができるようにすることです。結果として、本来異なるコントロールに行く選手が間違っってバンチングするようにしてます。バンチングを抑えるという意味ではうまくいっていたが、それがいきすぎってしまったんじゃないかな。

- 集団で走っていないというのは分かりましたが、男子・女子ともタイムが開いたのはどうしてでしょう？

ブランナーとしては、七里を知っているから簡単なコースだと思ったんですが、選手にしてみれば難しかったのかも。ルートを見るとつぼってはいたし。それと、4人選手をそろえるのは難しかったかな。

女子上位3校のルートをもらったんですけど、けっこうへましている。なんでそうなったかは、分からないんですが、一つ思ったのはルート選択が多かった。道は多かったけれど、オリエンテーリングをさせるところが多かった。それで、やっているうちに集中力がきれるということになっていたのかも。

- 全体としては、どんな感想を持っていますか。

ブランナーとしては、大差がついてしまったのはちょっと残念な結果ですね。女子の筑波はしょうがなかったかもしれないですけど。WC選考会と比べてみても、学生とシニア選手のタイム差がありすぎます。つまり七里のリレーは遅いってことです。リレーをやる回数が少ないからなのかな。リレーということを経験している、プレッシャーもあるんじゃないかと思います。男子もミスをしていて遅いですね。